



てんかんのキャリアオーバーの研究： 発作・精神症状で緊急の入院が必要になることが多い。

○谷口 豪、村田佳子、渡辺雅子、渡辺裕貴、岡崎光俊、曾根大地
国立精神・神経医療研究センター病院 精神科

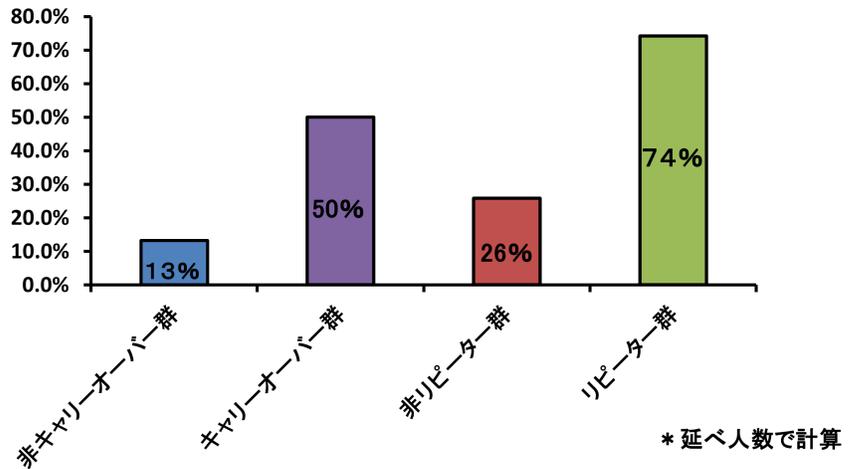
【背景】

てんかんのキャリアオーバー症例の問題を論ずる上で中核となるのは、**難治のてんかん発作**と**精神遅滞**を併せ持つ患者群であると考えられる。これらの患者にはどのような特徴があるのかを明らかにすることは、成人科の医師が**キャリアオーバー症例**を診療していく上で役立つと考える。

【方法】

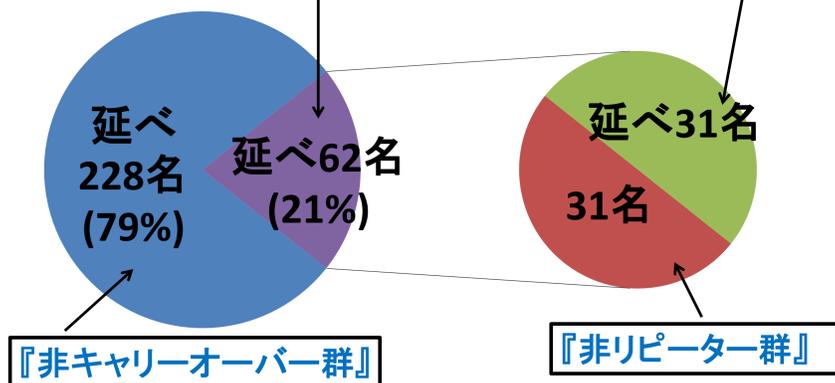
2010年10月～2012年2月に当院精神科てんかん病棟に入院したてんかん患者246名(延べ290名)中で、1) **てんかん発症は15歳以下** 2) **中等度以上の精神遅滞のある症例42名(延べ62名)**(=『キャリアオーバー群』)について、複数回の入院歴があった11名(延べ31名)(=『リピーター群』)を中心に臨床的特徴を後方視的に調査した。

緊急入院率: キャリアオーバー症例は緊急入院することが多い。
特に繰り返し入院をする群は緊急入院になる傾向が高い。



『キャリアオーバー群』=
中等度以上の精神発達遅滞
および
てんかん発症は 15歳以下

複数回の入院を繰り返している群=
『リピーター群』

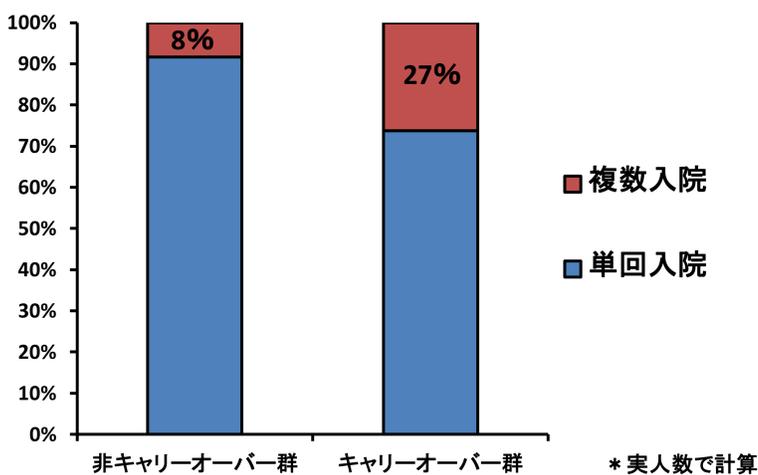


キャリアオーバー(リピーター群)11名のプロフィール

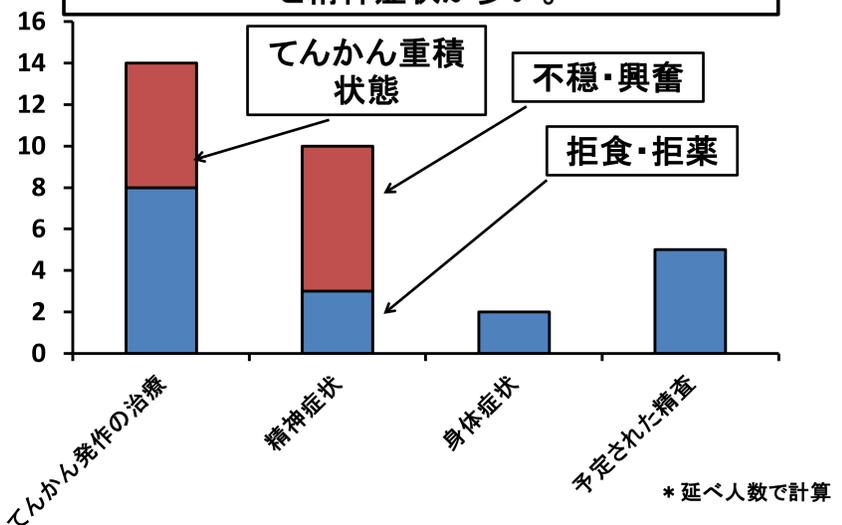
名前	性別	年齢	診断	発作開始	発作頻度	AED	知的障害	major tranquilizer	緊急入院
A	M	30	SGE (LGS)	7か月	日単位	5	重度	あり	yes
B	M	38	SGE (LGS)	1歳3か月	週単位	2	重度	あり	yes
C	M	43	SGE (LGS)	4歳	日単位	4	中等度	あり	yes
D	M	38	SGE (MAE)	5歳	日単位	4	最重度	あり	yes
E	M	32	SGE	1歳半	月単位	2	重度	あり	yes
F	F	61	SGE	12歳	週単位	2	重度	あり	yes
G	M	36	SMEI	4か月	重積	5	重度	なし	yes
H	M	36	SPE	2歳	日単位	2	中等度	あり	yes
I	M	35	SPE	8歳	週単位	3	中等度	あり	no
J	F	20	SPE	10歳	月単位	2	中等度	なし	yes
K	F	46	SPE	12歳	月単位	2	中等度	あり	yes

早期に発症する難治なてんかん患者が多く、重度の知的障害や行動面での問題がある。

再入院率: キャリアオーバー症例の4人に1人以上は入院を繰り返している。



11名(延べ31名)の入院時の問題点: 発作の治療と精神症状が多い。



てんかんのキャリアオーバーの中核群は、
1) 入院を繰り返す。
2) 多くは緊急の対応を要する。
3) 発作と精神面でのケアを要するという臨床的な特徴が明らかとなった。→ **キャリアオーバーは慢性・長期的な加療の問題であるが多くは容易に急性問題化し得る。** → 急性期にどのような対応が可能なのかを念頭に置いた診療が必要である。